



第2章 基本方針

本計画の基本理念や将来像、基本理念の実現のために掲げる6つの基本方針と公園の整備・維持管理方針について記載しました。

- 2-1 緑の基本理念
- 2-2 緑の将来像
- 2-3 基本方針
- 2-4 都市公園の整備・維持管理方針

2-1 緑の基本理念

本市に残された貴重な緑は、3つの河川と起伏ある地形が一体となった斜面樹林地、大規模な農用地と湧水とホタルなど多様な生物などの生息地、文化歴史的風土と一体となった社寺境内などの樹林地などに代表され、いずれも地域固有の地形、風土と一体となって綾瀬の特長を醸成する緑の空間が息づいています。

本市発展の経緯となった良好な住環境を維持・向上するとともに、水辺や歴史的資源と一体となった地域固有の緑を次の世代に継承していくために、住環境と水と緑と歴史・文化的要素が結びついた環境とともに生きるまちを目指すものとします。

良好な住環境の
維持・向上

水辺や歴史的資源と
一体となった
緑の継承



＜緑の基本理念＞

水と緑・文化が綾をなす 環境共生のまち

綾瀬の地名の由来：一説によると、本市を流れる川（瀬）が綾をなすように見えたことから、綾瀬の地名がついたと言われている。歴史的にみて水との関係性は深い。



住宅地の緑化（早川城山）



水辺の緑（比留川）

2-2 緑の将来像

緑の将来像は、緑の基本理念に基づく取り組みによって実現を目指す綾瀬市のあるべき姿であり、2つの概念構造に基づいて、3つの河川沿いに形成される緑の軸と緑の拠点によって構成されます。

特に、3つの河川沿いに形成される緑の軸やゾーンは、それぞれ異なった特徴を有する空間として維持、活用を図ることにより、東西軸によるネットワーク化の効果が生まれることとなります。

(1) 概念構造

◆緑の骨格となる南北の水の軸と東西の緑の軸が綾織り状になる緑の構造の形成

- ・東西方向の公園緑地のネットワークを充実させ、連携して機能が発揮できる構造をつくります。
- ・市域東部の綾瀬スポーツ公園と、深谷森林公園、早川天神森・春日原農用地と親水公園を連絡する新たな緑の東西軸を確保します。
- ・市域南部では、県道45号（丸子中山茅ヶ崎）により3つの河川と落合キツツキの森、綾南公園、河川沿いの斜面緑地、蟹ヶ谷公園を連絡する緑の東西軸を確保します。

◆『都市の中庭』と『緑の回廊』の形成

- ・大規模な早川天神森・春日原農用地は、自然生態系や湧水の水源涵養機能の面から、都市内に残る貴重な自然資源として、環境に配慮した保全、活用を行います。
- ・将来像では、早川天神森・春日原農用地を中心として、それを取り囲むように配置されている4つの公園により、『都市の中庭』を形成し、4つの公園（光綾公園、深谷森林公園、目久尻川親水公園、城山公園）を連絡する新たな軸を整備することにより、『緑の回廊』（コリドー）を形成します。

(2) 緑の軸と緑の拠点

◆目久尻川を中心とした水と緑の軸

- ・水辺に残された良好な自然資源に基づき自然環境保全機能を中心として特徴づけます。
- ・目久尻川沿いの祖師谷の緑及び城山周辺の緑は、生物及び環境の多様性から、エコロジカルネットワークにおける生物の生息拠点として位置づけるとともに、ネットワークを構成するまとまった樹林地などの緑の拠点間に、緑道や飛び石的な緑地を配置します。

◆比留川を中心とした水と緑の軸とタウンセンター周辺の緑の拠点

- ・早川天神森・春日原農用地と4つの公園、4つの軸により都市の中庭と緑の回廊を形成し、市民にとって利便性が高く、象徴的な空間として本市中心部に配置します。
- ・深谷中央地区及び早川城山地区の緑地は、市民の憩いの場としての核的な役割を担う位置にあることから、地区内の公園については、緑地とのネットワークが図りやすい位置に配置します。

◆蓼川を中心とした水と緑の軸

- ・蓼川を中心に、広域的レクリエーション需要に対応した公園機能を配置します。
- ・運動公園として、綾瀬スポーツ公園を配置します。
- ・綾瀬スポーツ公園と綾南公園、落合キツツキの森やドリームプレイウッズがネットワークされ、広域的なレクリエーション需要に対応します。

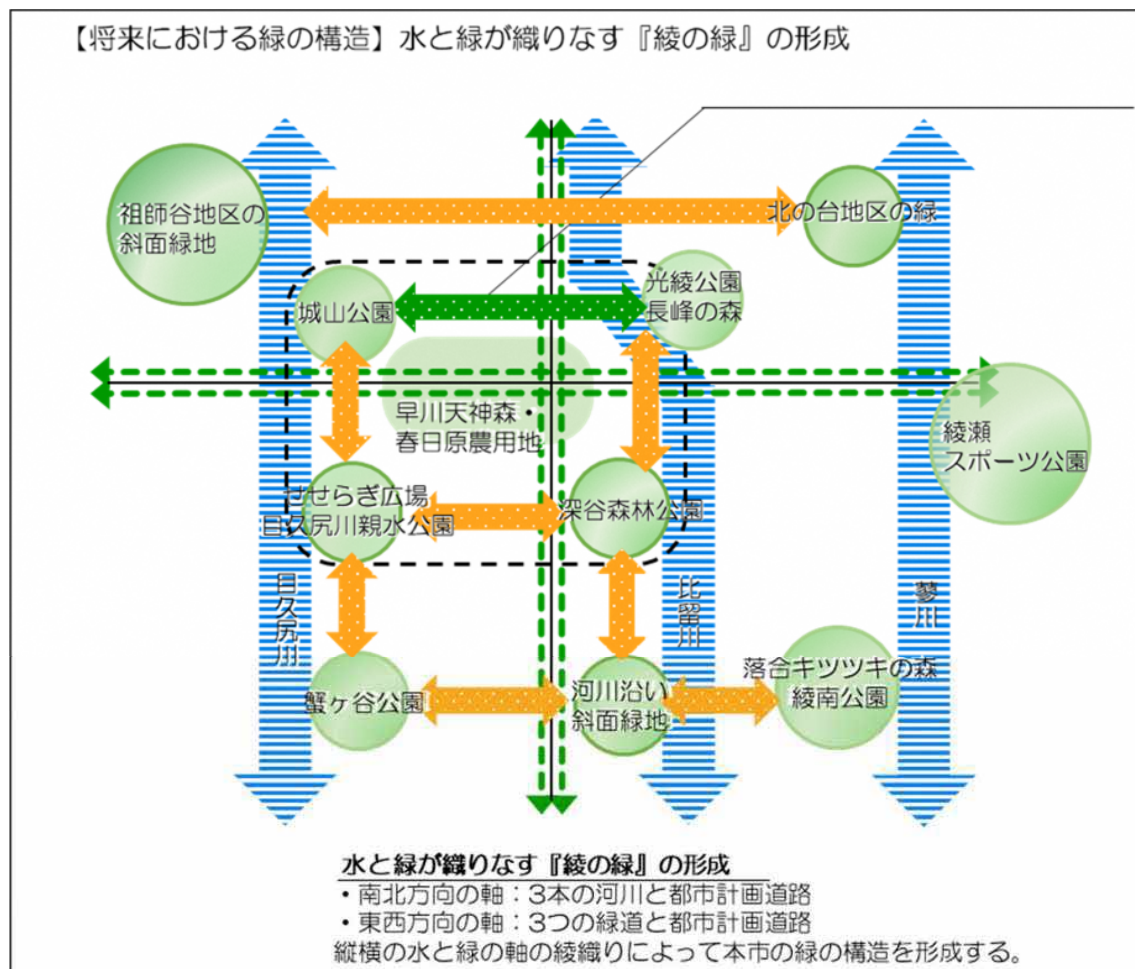
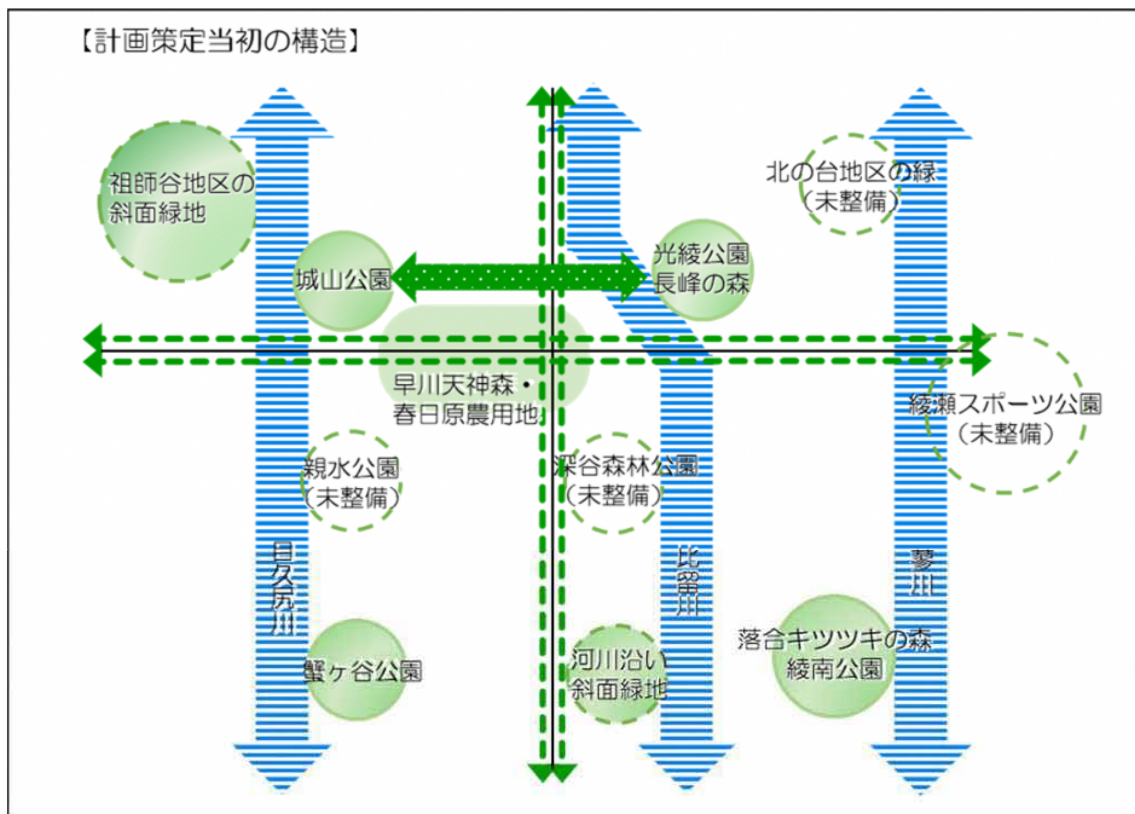


図2-1 緑の概念構造

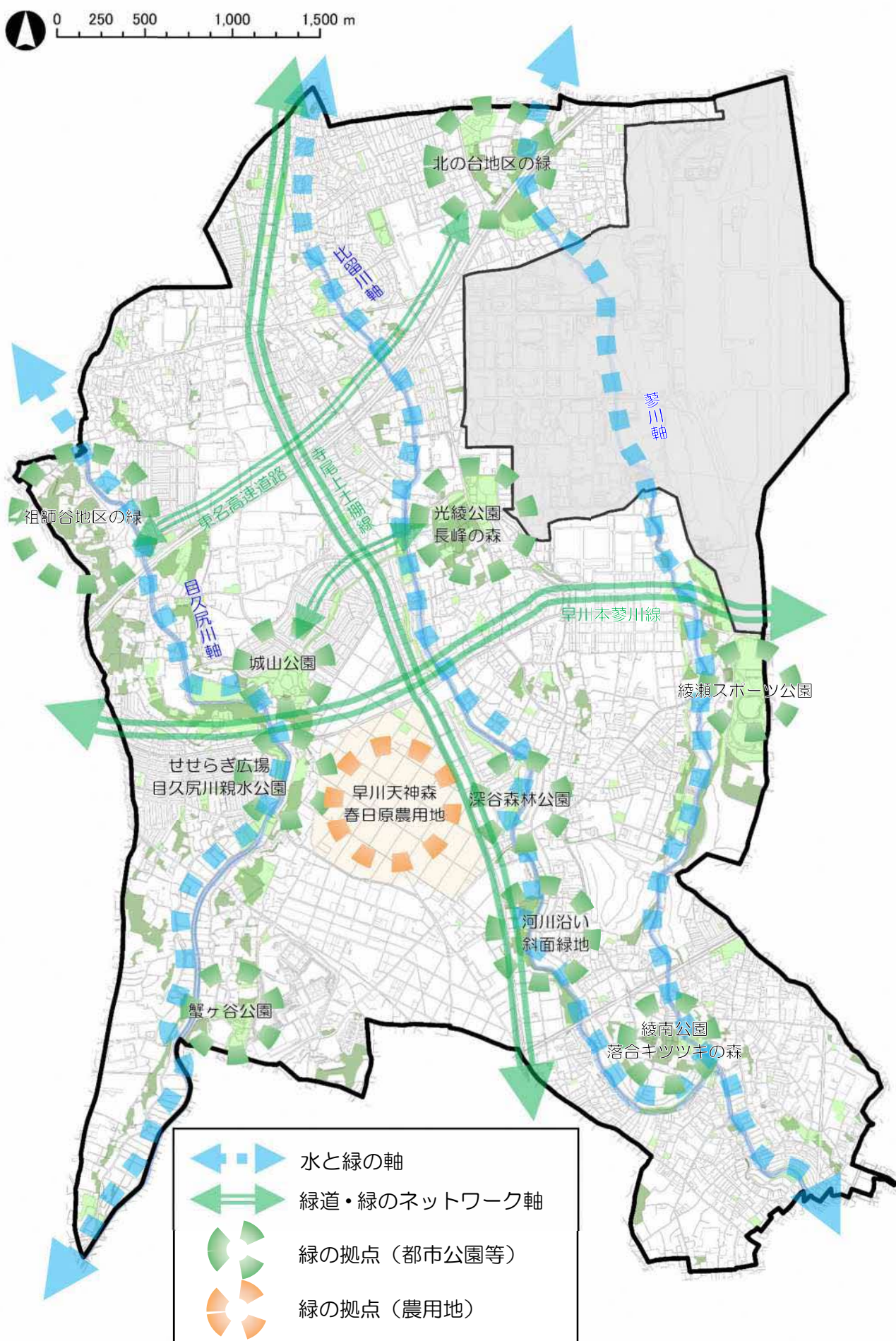


図2-2 緑の将来像図